

事業所名 ホースセラピーたてがみ

支援プログラム（放課後等デイサービス）

更新日 2025年 4月 1日

法人理念	<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び保護者の意思及び人格を尊重し、利用者及び保護者の立場に立った適切かつ円滑な支援を提供する。 ・自然や動物の力を借りて感覚統合を進める支援を行います。遊びや運動で刺激を与え、色々な感覚を正しく働かせるようになり、日常生活に適応させていきます。 					
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が生活能力の向上のために必要な訓練を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な支援を行う。 ・地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、市町村、福祉サービスとの密接な連携に努める。 ・それぞれの抱えている課題や特性に配慮した、ひとりひとりに寄り添った個別支援計画を実現します。 ・自然の中での遊び、馬や犬などの動物とのふれあいによって児童が活動の中で楽しみを見つけて進んで取り組みたいと思えるような支援を目指す。 					
営業時間	<ul style="list-style-type: none"> ・月・火・金 13時30分 から 17時30分 まで（ただし下校が早い日は開始時刻がその分早くなります。） ・土・日・祝日 9時 から 17時30分 まで（学校の夏休み、冬休みなどの休校日も含みます。） 	送迎	一部あり	※要相談		
支援内容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいの習慣や着替え、食事（おやつ）、排泄などの日常生活動作の獲得を目指し児童の自立度に合わせてサポートする。 ・外での遊びや自然の景色、動物とのふれあいを通して気分転換やストレス解消を図る。また、活動による程よい疲れで睡眠の質の向上を図る。 ・寒暖に応じた身だしなみや定期的な水分補給の習慣が身に付くようにサポートする。 ・定期的な心身の把握（個別支援計画の作成および更新時、その他気になることがある場合随時に面談を行うなど） ・菜園体験や料理イベントなどを通じた食育。 ・馬の世話で重いものを運んだりすることで筋力が身に付いたり、身体に力を入れる機会を作る。 				
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・広い敷地を活かした外遊びで身体を動かす。 ・児童同士の遊びのほか、犬の散歩や虫捕り、トランポリンなどのそれぞれの興味関心に合わせたアプローチをして外に出るきっかけを作る。 ・乗馬を通して体幹を鍛える。また、馬の動きや揺れに慣れることがそのままリズム感や平均感覚の獲得に繋がる。 ・馬装の際に、ナスカンの取り外しやベルトを締める、ブラッシングの力加減などで自然と指先をコントロールする力を身につける。 ・動物の毛並みを触ることで感覚刺激を得られる。 				
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・空間、時間、数の概念など認知発達を促す環境を整え、児童の理解度に合わせてサポートする。（時間、馬の餌の量の可視化など） ・ホースセラピーの手順を提示し、次は何をするのか自分で覚えて、考えて行動出来るように促していく。 ・ホースセラピーにおける馬の世話の意義、馬が示す反応の意図などを伝え、自身の役割意識や慈しみの心などを育てる。 ・自然環境の中で発見した素朴な疑問などを解消していくことで興味関心の輪を広げていく。 ・「馬に乗れた」、「馬に乗って走れた」、「他の子と仲良く遊べた」、「この前より上手になった」などあらゆる成長を褒めて次のステップへいけるよう自己肯定感を持たせる。 ・乗馬の上達に合わせて手綱を操作しながら、姿勢、進行方向を考えるなど一度に色々なことを考える能力を養えるよう支援する。 				
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・当所時や退所時、またはホースセラピー開始と終わりで挨拶が出来るようにする。 ・適度な距離感と必要に応じて言葉のキャッチボールが出来るよう職員が仲立ちして支援する。 ・強いこだわりがある、自分の気持ちを言葉に出来ないなど特性に応じて職員が仲立ちし健全な関係が築けるよう支援する。 ・馬との関わりの中で距離感や停止、発進の声掛け・合図などコミュニケーションの基礎を身につけられる。 ・馬の発する信号（表情、耳の動き、前掻きなど）を説明し、これらから馬の感情を読み取りそれに対応出来るよう促す。対人においても必要なスキルが身に付けられる。 				
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団・集団での遊びやゲームを通して人との関わり方や接し方、適度な距離感、自分の要望と相手の要望のバランス感覚を学べるよう支援する。 ・慣れてきた児童には職員から言われたことだけをするのではなく馬房が汚れていないかや飲み水が減っていないか等を自分で気付くよう促していく。 ・学校も学年も違う児童が集まるなかで年下の子には優しく接したり、年上の子や地域の方にはある程度丁寧な言葉を使ったりという意識が身に付くよう指導する。 ・地元の方との交流や社会体験の機会の場を設ける。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談でお子さまの発達状況、家庭での様子、支援のニーズの確認を行う。 ・お子さまとの関わり方や兄弟姉妹に関すること等の様々な不安や悩みに寄り添い、相談や上手くいった事例の共有などを行う。 ・保護者および兄弟姉妹も参加可能なイベントを開催し、保護者同士で情報交換したりお互いにアドバイスを受けたりといったポジティブな交流の機会を提供する。 					

移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な移行先の調整、先例をお伝えするなどの相談援助。 ・学年や学校も違う他児、その保護者、地域の方との交流の機会を提供することで集団への参加や環境に適応する力を養う。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所や障害福祉サービスとの連携。 ・必要に応じて学校や併用利用先との情報共有。
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な支援会議、職員会議の実施。活動についての意見を出し合うなど支援について考えを深める機会を多く設ける。 ・勉強会や研修への参加。また、不参加だった場合の落とし込みの徹底。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ふれあい（月1～2回） 児童だけでなく保護者および兄弟姉妹も乗馬を体験できる。 ・親子イベント（月1回） カレーなどの料理作り、手作りうどん作り、味噌作り、餅つきやかき氷などの季節のイベント等 ・地元の方を講師にした工作。 ・長期休暇には安房神社はや野鳥の森へお出かけの実施。

ホースセラピーのプログラム内容

ホースセラピーたてがみでは、馬の力を借りた感覚統合を進める支援を取り入れています。感覚が少し偏った障害をお持ちのお子さんが遊びや運動で刺激を与え、色々な感覚を正しく働かせることにより、日常生活に適應されるという支援方法です。楽しいと思うような事を通して感覚機能を伸ばしていきましょう。

1. 馬と仲良くなりましょう

【プログラム】

- ①馬に挨拶 ②草を摘んで馬にあげる ③ブラシを試みる
- ④顔を触ってみる ⑤蹄（ひづめ）のお手入れを試みる

まずは馬とのコミュニケーションです。初めは自分よりも大きい馬に近づくのも怖い気がします。少しずつ慣れてきたら草をあげます。指先を使って草を摘むと濡れていたり泥がついたりします。ブラッシングも馬の体を触るのも勇気がいります。

これを一つ一つ無理矢理に行わせるのは楽しいことではありません。お子さんが納得してやらないと意味がありません。

2. “馬装（ばそう）”をしましょう

【プログラム】

- ①ゼッケンをのせる ②ゲルパットをのせる ③鞍（くら）をのせる
- ④きちんと装着されているか、確認する ⑤腹帯を締める
- ⑥頭絡（とうらく）をつける ⑦手綱を首にかけ、馬の顔を抱える
- ⑧ハミを口に入れる

馬に鞍をつけて乗るための準備をします。馬装の手順はいつも同じ順番で行いますが何のためにこれをするのか、どうしてこの順番なのかなど一つ一つ考える力を養っていきます。これは言葉を組み立てて話したり、文章を書いたりすることが苦手なお子さんの改善に効果的です。

また馬に乗ることに慣れてきて、バランスがよくなってきたら軽乗鞍（けいじょうあん）というより感覚統合に適した鞍を使用します。その際には馬装の手順が変わるのでまた意味を一緒に考えながら順序立てをして覚えていきます。

3. もっと仲良くなりましょう

【プログラム】

- ① 馬を曳（ひ）いてみる
- ② カードにタッチする
- ③ 馬にまたがってみる
- ④ 常歩（なみあし）をする
- ⑤ 馬上体操をする

馬場に移動してお子さんに馬を曳いてもらうのはとても大きな意味があります。いきなり馬にまたがるのはまだ怖いと思っているお子さんが多いからです。まずはロープにつながれている馬を曳いて歩いてみると馬が後からついて来る、こんな大きな馬が自分の思い通りについて来るということに自信や馬に対する愛情や信頼が芽生えます。

そうして馬に乗ってみようかと思う気持ちがあらわれたところで乗馬します。決して無理に誘うのではなくお子さん自身に乗りたいという気持ちになってもらうことが大事です。そして乗馬スタッフが手綱を引きます。はじめは緊張していることでしょう。その為にお子さんの状態をみて、馬上体操という馬の上で手を回したり、馬の首やお尻をなでたりする体操を行います。そうすることによりリラックスしてきて馬の背中中の揺れを感じながらゆったりと乗ることができます。

4. 丸馬場で練習してみよう

【プログラム】

- ① 姿勢に気を付ける
- ② 常歩（なみあし）をする
- ③ 手綱でお馬を止める
- ④ 曲がる練習をする
- ⑤ 速歩（はやあし）をする

だんだん馬に慣れてきて怖さもなくなってきた段階で次のステップに進みます。

馬の揺れにより生じる体の傾きを正すためには姿勢をよくすることが大事です。それによりバランス感覚が養われます。馬が歩くリズムや筋肉の動きを感じることで首が安定して筋肉や体幹をきたえることができます。

また自分で馬に指示を出し、歩いたり、止めたり、曲がってみたりすることができるとう日常においても自分の意思を相手にしっかり伝えていく力につながります。馬の背中にまたがった高さは2メートル近くになります。また、馬の速さは時速6キロ程になります。馬上では風を切るのを全身で感じるすることができます。これらは新鮮な刺激となり感覚機能をのびします。

【ホースセラピーの感覚統合的効果】

○馬のエサやり

- 草をとるために力をつかう。
- 馬との距離感を考える。
- 馬の口や舌が手に触れる感覚を感じる。
- 世話をする役割意識を持つ。

○馬の手入れ

- ブラシをかけるための力のコントロール。
- 馬の毛並みを触ることでの感覚刺激。

○馬を曳いて歩く

- 馬の距離や停止、発進の間を考えるなど。
- コミュニケーションの基礎。
- 歩くことでしっかりと身体を使う。

○馬に乗る

- 馬の背中に乗り高さをを感じる。
- 歩くスピード、揺れる感覚、体が傾く感覚を受け、平行感覚を養う。

○一人で馬に乗る

- 手綱で操作しながら、姿勢の調整や進行方向を考えるなど、一度に色々なことを考える能力を養う。
- 自分のやりたいことを伝える力、また相手の気持ちを考える力を養う。

○馬房の掃除

- 道具の操作、身体の使い方を覚える。重たいものを運ぶことで、身体にしっかりと力を入れ筋肉を育てたり、たくさん力を使う機会が増える。

服 装

- ◆長ズボン ◆長靴（無ければ運動靴） ◆汚れてもよい服装

持ち物

- ◆ヘルメット（自転車用でも構いません）
- ◆軍手（手の汚れが気になる場合）
- ◆タオル ◆飲み物